辻　勝次先生の定年退職にあたって

立命館大学産業社会学部長
同 大学院社会学研究科長　**國廣　敏文***

辻　勝次教授のご退職にあたりまして，産業社会学部ならびに社会学研究科を代表して，先生のご経歴をご紹介させていただきます。先生のご研究の特徴や研究業績に関しましては，この後の資料でご紹介してあります。

辻先生は1943年３月のお生まれで，’66年に早稲田大学第一文学部哲学科社会学専修をご卒業後，’67年４月に東京都立大学大学院社会科学研究科社会学専攻修士課程にご入学，’70年３月に同課程を修了し，「社会学修士」の学位を取得されました。その後，’71年４月に立命館大学産業社会学部助教授にご就任，’84年４月には同教授に昇任され，今日に至るまで37年ものあいだ教鞭をとってこられました。

この間，産業社会学部では「労働社会学」（学部）と「産業社会学研究」（大学院）をメインに講義を担当され，働く人たちの生活や労働，キャリア形成の問題を正面からとり上げ，多くの学生，院生を育ててこられました。また，辻先生は，学部における「社会調査士課程」の立ち上げと運営の中心となって尽力されてこられました。その結果，本学部は第一期の課程認定校（全国で40大学）として認定を受けることができ，これを契機として同課程を80名規模に拡大いたしました。辻先生は，これ以降もこの課程を一貫して担当するなど，本学部における「社会調査士課程」の拡大・発展に大きく寄与されました。さらには，産業社会学部コアテキストである『基礎社会学講義』（学文社，2002年）の編集・執筆にも主導的役割を果たしてこられました。

学内の教学を支える上でも，1981年度には学生主事，’89年度に調査委員長（現在の企画担当副学部長），’92年度には学部主事（現在の教学担当副学部長）・研究科主事（現在の大学院担当副学部長），’96年度には大学院委員と研究科主事を，さらに2000年度には入試の総主査，2000～2001年度には大学協議員など，数多くの大学役職を務めてこられ，大学と学部，学部学生・大学院学生の教育のために貢献してこられました。このなかで，辻先生が学部主事と研究科主事を兼務されていた’92年度に，私は学生主事を務めさせていただきました。その年は色々なことが起きた年で，私は“事件を呼ぶ男”などと言われましたが，様々な問題の解決や対応に執行部としてご一緒に取り組んだことが，今となっては懐かしい思い出となっております。

このように辻先生は，教育，研究，校務それぞれの面で大いに活躍をされてきました。先生は今年で定年を迎えられますが，まだまだお元気でいらっしゃいます。今後は，我々の“先輩”というお立場で学部の行く末について大所高所からご意見やお力添えいただければと思います。私たちは

辻先生が取り組んでこられた諸課題をそれぞれの立場から引き受け，今後の研究の推進と，学部・大学院教育に邁進する決意を新たにしているところであります。

最後に，これまでの先生のご活躍に敬意を表しますとともに，本学部ならびに大学へのご貢献に心より感謝いたします。これまで37年間の長きにわたり本当にありがとうございました。これからも，お元気でご活躍ください。以上をもちまして，私からの挨拶に代えさせていただきます。

2008年３月11日